

山村 尚

通告に従い一般質問を行います。

前回、12月議会で行った道の駅整備事業の再検証についての一般質問では、当時、整備事業に関する市民アンケートを取っている最中ではございましたが、この内容について意見を述べさせていただきました。

アンケートで示された再検証資料では、整備パターンとして、道の駅を整備する、広場を整備する、現状維持の3パターンがございました。一方、市民アンケートの中身を見ると、パターンが示されているにもかかわらず、広場を整備するに関する選択肢が総括する設問にない、この点を指摘させていただきました。

また、アンケートでは、地域振興施設を整備するかしないかを焦点としているが、そうではなく、整備予定地の利活用方法、ビジョンをどのように持っているのか、そこに市民の関心はあるのではないかと、このように述べさせていただきました。

そして、1次アンケートで道の駅整備を含めた牛久沼周辺の土地活用に関しての市民の思い、傾向が確認できるので、新たに2次アンケートを取るべきではないか、このように提案いたしましたが、2次アンケートを実施する予定はないとのことでした。

では、道の駅整備についての方針が示された後、どのようなプロセスを踏もうとしているのか、今回最後の質問で確認したいと思います。

背景はこのぐらいにして、質問に戻ります。

さて、今回2月1日に道の駅整備事業に関するアンケート結果が公開されました。この結果を見ると、「整備してほしい」「してほしいが機能・施設の内容は十分に検討」が約43.2%、「必要ない」が約50.8%、「どちらとも言えない」が約5.4%との結果でした。

整備してほしいが機能・施設の内容は十分検討が必要の回答理由には、飲食店や商業施設より景観を生かした公園施設としたほうがよいから、開設場所を再検討する必要があるからの理由がございました。一方、どちらとも言えないとの回答では、立地、運営、費用、ビジョンに対して否定的な内容が回答理由に多く見られます。整備してほしい以外の回答では、懸念する理由に、コスト、費用対効果、ビジョン、近隣商業施設などが共通して挙げられています。

また、再検証資料に書かれている地域振興施設での農産物販売に関し、反対意見が多く見受けられます。整備する、必要ない、どちらとも言えないの全ての回答理由では、行うべきものとして、水辺資源の持つポテンシャルの活用、牛久沼の景観を生かした活用が共通して挙げられています。

回答理由を細かく見ると、整備してほしいが機能・施設の内容は十分検討してほしいとの回答理由に、飲食店、商業施設より公園施設がよいからとがございました。公園施設でも道の駅となり得るのだろうか。再検証資料では、地域連携機能に地域振興施設が示され、そこに物販施設、飲食施設が入ることを前提とし、事業費、売上高が示されたところでございますが、改めて国交省が承認、登録する道の駅とは、どのようなものを指すのか、その定義について伺います。

木村博貴市長公室長

道の駅の定義と、また、国交省の登録要件ということでお答えさせていただきたいと思います。

道の駅は、市町村またはそれに代わり得る公的な団体が設置し、国土交通省が登録することとされており、地域の創意工夫により道路利用者に安全で快適な休憩と多様で質の高いサービスを提供することを目的とした施設と定義されております。そして、それらの目的を実現させる

ため、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能の三つの機能を持たせることが登録の要件となっているところでございます。

それぞれの機能について具体的に申し上げますと、休憩機能については、利用者が無料で24時間利用できる十分な容量を持った駐車場、清潔なトイレ、ベビーコーナー等といった子育て応援施設となります。情報発信機能につきましては、道路及び地域に関する情報提供施設となります。地域連携機能につきましては、文化教養施設、観光レクリエーション施設、物販施設、飲食施設など、地域のにぎわいや活力を引き出す施設などとなります。

なお、地域連携機能につきましては、設置者の創意工夫により、建物に限らず様々な形態があるものと認識しているところでございます。

山村 尚

多くの道の駅には立派な建物があり、そこで農産物、野菜、物産品の販売がされていますが、そのような建物がなくとも道の駅となり得るということで理解しました。

道の駅というと、一般的には農作物や野菜、物産品が置かれており、それが建物の中で広い面積を占めている、そのような施設をイメージしますが、必ずしもそれだけではない。アンケートの回答を見ると、建物にかかるコスト、費用対効果、野菜を中心とした農産物などの販売に関して懸念、反対する意見が多く見られましたが、大きな建物があつて、野菜などの販売を主なものとしないう道の駅もあり得るということでよろしいですね。

何らかの施設整備をするとした場合、その負担は自分たちの世代だけではなく、子や孫の世代まで引き継がれることになります。10年後、20年後、30年後を見据え、膨大な税金で造られた建物が後世に負の遺産と残らぬよう、焦ることなく慎重に検討を進めていっていただきたいと考えます。

続いての質問です。12月議会の私からの質問答弁で、道の駅整備事業の方針決定は、市民アンケートの回答、議員からの提言内容、農業者や商工会などの関係団体からの意見、これらを参考に市長が最終判断すると答弁がありました。では、その関係団体からどのような意見があつたのか。また、この意見に対し、市長はどのようにお考えになったのか、金剛寺議員の質問と一部重複しますが、これについてお聞かせください。

萩原 勇市長

関係団体からのご意見につきましては、道の駅整備に期待を寄せる意見として、将来を心配するご意見と、どちらのご意見もあつたところでございます。

期待する意見としましては、道の駅を整備する際は新たな魅力やにぎわいを創出するため、バーベキューやキャンプなど、遊べる空間の創出。中の島の活用など、ほかにはない特徴的な道の駅にしてほしいといったご意見がございました。道の駅や牛久沼を地域振興の中核的な場所とすることに対する期待を感じたところでございます。

反対に、龍ヶ崎は水稻を主体とする生産者が多く、野菜の出荷が限られる。農業者の高齢化もあり、道の駅に地域の農産物を取りそろえることは難しいのではないかと。市内の農産物出荷者の状況では、検証資料に示す売上高を達成することができないのではないかと、農産物の集出荷体制を懸念する意見がございました。

また、地域振興施設に関しましては、施設にかかる費用は最小限としつつも、汎用性の高い環境を整備してはどうかといったご提案もいただきました。大きな負担財政負担、施設の安定的な運営、事業の継続性を危惧したご意見であると感じております。

いただいたご意見につきましては、自ら事業を営みながら地域の発展に貢献されてきた皆様からの貴重なご意見であるとともに、皆様のご協力がなければ、この道の駅事業は成り立たないものと認識しておりますので、大変重く受け止めているところでございます。

関係団体の皆様や市民の皆様からいただいたご意見をはじめ、様々な観点から熟慮した上で今後の方向性を示してまいりたいと考えております。

山村 尚

期待する意見は、整備予定地の利活用に関するもの。一方、懸念する意見は、農産物の準備から出荷までの全般に関してということでした。そして、市長は、これを重く受け止めているとのことでした。

改めて整理すると、野菜などの販売を主なものとししない道の駅もあり得る。また、関係団体では農産物の準備から出荷、売上高を達成できないのではないかなどの心配をしているとのことでした。整備事業について、どのような方針を取り、どのような策を講じるのか慎重に十分な検討を行っていただきたいと考えます。

続いての質問、アンケート結果を分析して市民の思いをどう感じたかについてですが、ほかの議員から同様の質問がありましたので、割愛しますが、この際に答弁された内容の2点、一つ目は、アンケート結果から、にぎわいづくりイコール道の駅整備と読み取れなかったこと。二つ目は、市民が関心を寄せているのは整備予定地の環境が持つ可能性であること。この点をしっかり認識いただきたいと思います。

続いての質問です。牛久沼土地活用をすると判断された場合、計画、活用方法の立案などで市民活動団体、学生などに関わってもらってはどうかについて質問いたします。

今年1月の下旬になりますが、12の市民活動団体の長が一堂に集まり、市長と面会いたしました。活動団体に所属するメンバー数は総勢500名弱いるとのことでした。「市民活動ネットワーク」と称し、市と相互に協力し合おうとの目的で、市長と初めての顔合わせを行いました。私もその顔合わせに参加いたしました。

また、2月初旬には竜ヶ崎第二高等学校で「公共施設を考えよう」を題材とした市民フォーラムが開催され、国交省の官民連携サポーターである天米一志氏の講演がありました。講演の中では、公共施設の量を減らし、質を向上するこれからの新しい形は、市民の意見や民間事業のノウハウが必要不可欠と、公共施設の質の向上に市民の意見は重要であることを述べられておりました。

12月議会でもお話ししましたが、私自身も牛久沼土地活用に関して、おもしろいアイデアを市民活動に参加した際に市民の方から伺っています。このように、まちをよくしたいと考える市民や市民団体があり、また、市民の発する意見の重要性も認識されている中、牛久沼土地活用をすると判断された場合ではありますが、市民や学生、市民活動団体の持つ斬新で素晴らしいアイデアを土地活用の計画、立案等に生かしてはと考えます。これに関するご見解をお聞かせください。

萩原 勇市長

牛久沼では、現状でも水辺の清掃活動、また、地域の子どもたちを対象としたウインドサーフィン少年団などによりまして、様々な活動が行われているところでございます。

私も牛久沼を自転車一周したり、ウインドサーフィンを体験しながら、牛久沼周辺地域で活動されている団体の方、また、個人的に牛久沼でのアクティビティーを楽しんでいる方に直接お

話を伺ったことがございます。皆様、活動にちなんだアイデアはもちろんですが、牛久沼、龍ヶ崎市の未来に向けたご提案等もたくさん伺いすることができたと思っております。

また、学生の参画ということでは、昨年度、高校生政策アイデアコンテストを行う中で、まさに牛久沼の活用に関するアイデアが提案されたところでもございます。

先日も龍ヶ崎第二高等学校において、公共施設の現状や今後の在り方などを考えていく機会とするための市民フォーラムを開催し、様々なご意見を伺ってきたところでございます。

本市におきましては、多くの市民活動団体も活発に活動されております。さらには、自治会、町内会、有志のボランティアなど、様々な主体が地域、まちの担い手としてご協力をいただいているところでございます。

そのような多様な主体と関わり合う、連携することによりまして、訪れる方にとって、牛久沼がよりよい居場所となるよう取り組んでまいりたいと考えております。

山村 尚

まさに、市長のおっしゃっているとおり、市民と連携してこれから進めていっていただきたいと思っております。

今回行われた市民活動団体との顔合わせの場、これを意味あるものとするよう、前向きな連携をお願いしたいと思っております。

最後の質問です。これまで行われてきた道の駅整備事業の再検証に関するフロー、流れを改めて振り返ると、まず、整備事業の概要、再検証資料が開示されました。その中で三つのパターンが示されました。また、市民との意見交換会、関係団体からの意見聴取が行われ、再検証に対し、決定方針を示す3月となりました。

市民は、この方針決定で全ての方向性が確定してしまうのか、それとも次のステップとして考えられているものが何かあるのかに関心を持っています。

そこで質問いたします。

今年度末までに開示される方針では、道の駅を整備する、道の駅を整備しないとがあり、整備をしないとなった場合でも、現状維持と広場を整備するという二つのケースがあります。仮に広場を整備するケースとなった場合、土地活用の活用方法も踏まえ、その後のフロー、流れをどのようにお考えかお聞かせください。

木村博貴市長公室長

11月に公表しました再検証の資料で、道の駅整備予定地での想定される整備パターンの一つとしてお示しした、広場として整備する場合の今後の流れ、進め方ということでお答えさせていただきます。

そのような判断がされましたときには、一番は、既設の牛久沼水辺公園との役割、すみ分けをどのように図っていくのかを検討した上で、整備イメージを作成することになると思います。その上で、その整備イメージをたたき台として、先ほど市長からもご答弁差し上げましたけれども、市民の皆様ですとか関係団体の皆様からご意見をいただきながら、具体的な使い方や、その使い方に沿った整備内容を詰めていくような流れになろうかと思います。

山村 尚

ご答弁にありましたように、広場として整備する場合、水辺公園というものがありますので、そこでの役割、すみ分けを考えねばならないと私も考えます。そして、具体的な使い方、使い方に沿

った整備内容の検討では、市民の意見、関係団体の意見を聞いていくとのことでした。広場を整備するという仮の話になってしまいますが、土地活用の計画、立案から市民に参画してもらい、そして、整備予定地は水辺公園とは違った特色を持たせ、市内外から人を呼び寄せられる場とする、このように考えます。

また、最初の質問で、大きな建物で野菜などの販売を主なものとし、ない道の駅もあり得るということを確認いたしました。水辺資源の持つポテンシャル、牛久沼の景観を生かし、それを活用した道の駅ともなるのか。今回行った再検証の前提が大きく変わり、新たな議論、検討が始まる場合でも、市民への丁寧な説明が必要です。

繰り返しになりますが、牛久沼土地活用をするとした場合、焦る必要はありません。市民との意見交換を十二分に行い、市民の意見を取り込みつつ、慎重に検討を進めていただきたいと思います。

以上です。